緑の地球　第148号　　2012年11月15日発行　　年6回・奇数月15日発行　　発行：認定特定非営利活動法人　緑の地球ネットワーク
年間購読料2,000円（送料含む）定価300円　〒552-0012大阪市港区市岡1丁目4-24 住宅情報ビル5F　TEL. 06-6576-6181　FAX. 06-6576-6182
郵便振替　00940-2-128465　E-MAIL：gentree＠s4.dion.ne.jp　URL（ホームページ）：http://homepage3.nifty.com/gentree/

緑の地球

GREEN EARTH

地球環境のための国境をこえた民衆の協力

南天門自然植物園のナラ。今年はたくさんドングリをつけた。

Contents

●緑の地球ネットワーク20周年シンポジウムのご案内　…Ｐ2
●カササギの森報告　……　Ｐ4～5
●大阪市RR厚生会ツアー参加報告　……　Ｐ6
●GEN自然と親しむ会ご案内　……　Ｐ6

2012.11
148

認定特定非営利活動法人　緑の地球ネットワーク

GENに参加するには　☆会員・会報購読者になる　☆自然と親しむ会・講演会・報告会・学習会に参加する　☆ワーキングツアーに参加する
☆ビデオ『よみがえる森』を見る　☆書き損じハガキ・古切手を集めて送るetc.　　★あなたのご参加を待っています！

参加者募集

緑の地球ネットワーク 20 周年記念シンポジウム

『緑をまもる、命をつむぐ』

GEN が中国山西省大同市の黄土高原で緑化協力をはじめてから 20 年を記念し、1 月には東京でシンポジウムを、8 月には大同で記念イベントを開催しました。いよいよ大阪でシンポジウムを行います。

今回は、実際に「緑をまもる」ことに関わり、森林や自然環境の現状に広い知識をお持ちのパネリストを迎えます。これまでの GEN20 周年記念行事に参加できなかったかた、ぜひともご参加ください。

●日時：11 月 17 日（土）13 時 30 分～16 時 30 分
●場所：エル・おおさか（大阪府立労働センター）視聴覚室
（地下鉄谷町線・京阪「天満橋」駅から西へ 300 m）
●参加費：1,000 円（学生 500 円）
●パネリスト
▼只木良也さん（国民森林会議会長、自然大学学長）
▼高田直俊さん（前（社）大阪自然環境保全協会会長）
▼前中久行さん（元大阪府立大学大学院教授、GEN 代表）
●コーディネーター
▼福本麻衣さん（イオンリテールワーカーズユニオン）
●報告
▼高見邦雄さん（緑の地球ネットワーク事務局長）
★終了後懇親会を行います。会費 3,500 円　参加ご希望のかたは 11 月 14 日までに GEN 事務所までお知らせください。

2012 秋の専門家派遣

大塩　春治（GEN 会員）

9 月 10 日～ 17 日の日程で秋の専門家派遣を実施し、13 名が参加しました。今回の活動についてのリポートをご紹介します。

専門家の地味な調査と測量活動を正確に分かりやすく伝えるのはかなり難しいが、この秋に派遣されたみなさんの働きぶりについて多少の偏見がまじるかもしれないが報告する。

9 月 11 日、前夜 10 時すぎに通訳の余文さんに連れられて列車で霊丘県に入った一行 13 名はバスで南天門自然植物園に向かった。すこし肌寒いが苦にはならない。

南天門の急な坂道を 30 分ほど登ったところに以前から設定されている自然林の調査区がある。リョウトウナラなどを中心とした自然林ができている。樹高は 4 メートルもあろうか。林床は薄暗く落葉には白い菌糸がついて腐蝕が進んでいる。その進み具合には小川顧問も驚いていた。キノコの調査が始まった。数メートル間隔で横 1 列に並んだ栗栖、宗實、伊東、齊藤、大木の樹木医たちがキノコを探しながら急斜面の樹林を上って行く。あまり美味しくなさそうな数種類のキノコ数十個がこの日の成果であった。いっぽう、森人の宮下さんは木の葉の露の pH が約 4 の酸性であると言って葉枯れなどの影響を心配していた。

緑の地球環境センターで土に混ぜた木炭の効果の検証が行われた。畑で掘り取った大量のトウモロコシとダイズが事務所の中庭に広げられたが、傍目にはみな一様によくできているようにみえる。樹木医のグループに現役大学生の鶴田さんも加わり、根の大きさ、草丈、重量、収穫量などが次つぎ測定されていく。あとで我われも枝豆のご相伴にあずかった。いっぽう、根方に木炭を鋤き込んだアンズは根がよく伸びていたという。また、カササギの森で 2 年前に植えたマツ苗の調査では活着率に対する木炭の効果が歴然としていた。

カササギの森ではマツが立派な森に育ちつつあり、標準的なモンゴリマツの樹高は 2.0 ～ 3.5 メートルになっている。来年には 4 メートルを越す個体も出てくるであろう。ここではマツの樹高と根元の幹まわりを継続的に測定しており、今年は前中代表と担当の永野さんに、北京在住の気鋭の津田さん、余さん、筆者などが参加して 2 日間で約 500 本の測定を行った。単純な作業ではあるが松葉と硬い下草に顔や手を突かれながらのかなりの難行であった。さらに、マツを個体ごとに詳しく調べるため、永野さんが 13 本の松を伐採してセンターに持ち込んだ。幹の長さや総重量の測定が終わると、解体して幹、枝、葉のそれぞれについてくわしくデータをとらなければならない。とりわけ枝から葉をはずす作業は手間がかかる。派遣団の全員と余さんが応援に加わる。老いも若きも黙々とひたすら手を動かしていると、津田さんがしびれを切らして現地スタッフにも手伝ってくれるよう交渉に行った。そしてかろうじて 2 名の賄いのオバサンの応援を得ることができた。ともあれ丸 1 日をかけて解体を終え、大いに達成感を味わった日であった。

2 年前から建設を続けてきた緑の地球環境センター内の生態植林見本園は、前中代表のレイアウトに従ってかなりの植林が進んでいる。有用植物見本園も着々と定植が進められていた。1 年前から大同で集めてきた薬草・薬木、および河北省安国市で調達した薬草も順調に育っていた。キキョウが満開であった。クロサイコも黄色の花をつけていた。今回南天門やカササギの森で採集したメギやマオウなど約 10 種も見本園に植えた。隅の小さな池には水が入った。来年、ワーキングツアーに参加され↗る方はこれまでとは違うセンターの姿を見ることになろう。数年後にはさらに充実した見本園を見てほしい。

最終日の 16 日には、二手に分かれて雲崗の石窟と万里の長城の見物に出かけた。昼ごろセンターに帰ってみると高見事務局長がひとりで見本園の植物の名板を作っていた。事務局長は何時もブルドーザーのように働いている。今回にかぎらず、彼がゆっくり休んでいるところを私は見たことがない。

年末カンパのお願い

1992 年の GEN スタートから 20 年。多くのみなさんからの会費・ご寄付等で GEN の活動を支えていただき、たいへん感謝しています。

ここ数年、会員が減少し始め、寄付金額も減ってきています。国内外の事情によるところが大きく影響しています。日中関係の難しい状況も今後に響いてくると予測されます。

一方でこれまでどおりのご支援を続けていただいているかたも多数です。今こそ日中間の民間交流をというみなさんの思いも強く感じます。

中国大同では、この 20 年をかけて山地の緑化、小学校付属果樹園の建設とともに、独自の施設として、霊丘県の南天門自然植物園、大同県のカササギの森、地球環境センターの基本建設が終了して、内容を充実させる段階となっています。森林を復活・維持していくのには長い年月が必要です。最終的には中国側が維持・管理していくこととなりますが、まだしばらくはカウンターパートの大同市総工会・緑色地球網絡大同事務所と GEN が共同で仕事を進めていく必要があります。日本の専門家を現地に派遣して成果をよりよいものとし、まとめ上げる作業も継続しなければなりません。

この活動を途切れさせないためにみなさんのご支援をお願いいたします。

まだ会員でない方、ぜひ入会してください。また、可能な額でけっこうですので、ご寄付をお願いいたします。

作業の都合で、一律に郵便振替払込用紙を同封しますが、最近ご協力くださった方へは重ねてのお願いではありません。

いますぐできるＧＥＮへの協力

■会員の輪をひろげよう！

緑の地球ネットワーク会費（年額）

一般会員	12,000 円
家族会員（同居の家族 2 人目から）	6,000 円
学生会員	3,000 円
ジュニア会員（中学生以下）	1,000 円
団体会員	12,000 円
賛助会員	100,000 円

※会費は会報購読料を含んでいます。

■会報を購読してください！

GEN の活動に関心はあるけれど会員になるのはちょっと、という方は、会報『緑の地球』を購読してみませんか。年間購読料 2,000 円。

■緑化基金、運営カンパもとむ

金額は自由です。使途自由のご寄付も受け付けます。その場合、必要に応じて使わせていただきます。GEN への寄付は、寄付控除の対象となります。

■書き損じはがきを集めています

書き損じはがき、古い未使用のはがきを集めています。通信費にあてます。

■未使用切手・古切手を集めています

普通切手、記念切手、外国切手なんでも OK。古切手は周囲を 1cm ほど残して切り取ってお送りください。未使用切手も大歓迎です。

【GEN への寄付は税制上の優遇措置を受けられます】

緑の地球ネットワークは国税庁長官に認定された認定 NPO 法人です。（期限は 2014 年 5 月 31 日まで）。

GEN の場合寄付金となるのは、緑化基金・運営カンパ、おまかせカンパと会費のうち 1 口を超える部分、賛助会費から 12,000 円をひいた金額です。

■所得税控除

GEN への寄付は、所得控除あるいは税額控除を受けられます。対象となるのは 2,000 円以上の寄付金で、確定申告が必要です。

企業（法人）からの寄付金は、一般寄付金の損金算入限度額とは別枠の損金算入限度額が認められています。

また個人が相続または遺贈により取得した財産を、相続税の申告期限以前に認定 NPO 法人に寄付すると、相続税の課税対象から除外されます。

■大阪市民税控除

2013 年 1 月 1 日現在大阪市にお住まいのかたで 2012 年中に GEN に寄付をされたかたは、大阪市民税が控除されます。確定申告または市・府民税申告書提出が必要です。

くわしくはお問い合わせください。

ＧＥＮ20 周年記念活動@北京について

東京、大同、大阪につづいて、緑の地球ネットワークの 20 周年記念活動@北京を、長年にわたってこの活動を支持・協力してくださっている団体・有志のかたが準備してくださっています。どんなに困難な状況でも民間交流の火まで消してはならないと思います。開催日は 2013 年 1 月 8 日（火）の可能性が高いのですが、最終決定にもう少し時間がかかります。参加いただける方は個別にご案内しますので、ご連絡いただけるとさいわいです。

緑広がる実験林場 ～カササギの森～

2001 年にスタートした実験林場「カササギの森」。東西 2km、南北 4km の植栽が 2010 年春までに基本的に終了し、いまは山火事の防止など管理に努めています。また樹木の伸長量調査なども継続しています。たくさんのみなさんのご協力に感謝いたします。

スタートした2001年度から2011年度までに、合計で2,617,876元、日本円で37,134,131円を投じて、554ha、163万本の苗木を植えました。個人や団体、企業などからこれほどの寄付が寄せられたのです。

アブラマツ（油松）、モンゴリマツ（樟子松）が大部分ですが、ほかに針葉樹はカラマツ（華北落葉松）、トショウ（杜松）、トウヒ（雲杉）、イブキ（桧柏）などを植えています。

広葉樹はナラ（蒙櫟、遼東櫟）、シラカンバ（白樺）、ニレ（楡）などを植え、管理棟の周囲や谷にポプラやヤナギを植えました。

それから谷の東側の斜面には、花木を集中的に植えました。ノモモ（山桃）、アンズ（山杏）、バラ科の花木（玫瑰、黄刺梅）などがよく育ち、季節にはきれいな花を咲かせます。この会報がカラー印刷でないのがザンネン！

灌木や草も重視しました。ヤナギハグミ（沙棘）、ムレスズメ属（檸条）、ムラサキモメンヅル（沙打旺）などです。ムラサキモメンヅルは以前はよく利用されましたが、その後、数年で消えてしまうことがわかりました。ここでもそうです。

【初期に植えたマツは３ｍ以上に】

最初の５年は１年に 40 ～ 150ha、17万～ 49 万本というふうに大規模に植えました。たいていは２種類のマツで、２～３年生の小さな裸根苗を植えていました。1ha に 3300 本です。ところが植林がはじまって放牧がなくなり草が茂ると、ノウサギが急に増え、苗の先端を食いちぎってしまうのです。そうなるとマツは育つことができません。対策として、ポット代わりのポリ袋で育てた４～５年生の大きな苗を植えるようになりました。1ha あたりの本数を半分に減らしましたが、それでもコストパフォーマンスはずっと下がりました。

浸食谷を背に整地をする村の人たち（2001 年）

初期に植えたあの小さなモンゴリマツは 3m 以上に育っています。風の強いところなので、アブラマツは伸びるべきかどうか迷っているふうですが、モンゴリマツは最初から素直に伸びます。今年の夏、株元にはたくさんのキノコ（主にチチアワタケ）が生えていました。マツと共生する菌根菌です。

運転手の小郭を追いこしたシラカンバ

【期待をもたせるナラの育ち】

試験的に植えた広葉樹はさまざまです。ニレは谷筋にはよく育ちますが、黄土丘陵では育ちがよくありません。シラカンバは初期の生育は遅かったのですが、５年目くらいから勢いがつき、可能性があります。シンジュ、モクゲンジ、カエデなどは伸び悩み、消えたものも少なくありません。根粒菌と共生し、どんな痩せ地でも育つはずのハギ（胡枝子）すらここではまともに育ちません。

興味深いのはナラ（蒙櫟、遼東櫟）です。霊丘県の南天門自然植物園ではよく育つので、期待をもって植えました。この緯度のこの高度の森の主人公になるはずです。2002 年の春に植えたものがちゃんと越冬し、活着率も高いのです。しかし伸びませんでした。７～８年たっても、大きいもので 50cm ほど。半分諦めていました。ところが 2010 年あたりから、伸びるものがでてきました。1 年で 60 ～ 70cm も伸びて、樹形が整ってきたものもあります。そして、よく伸びているものの根元にはキノコが生えています。小川眞先生が発見しました。ことしはドングリをつけるものもでてきました。このまま伸びるようなら期待をもてます。

よく育つナラの根元にはキノコが

樹木だけではありません。ヒエンソウ、リンドウ、マツムシソウなどがことしの夏もきれいに咲きました。

植物の生育とともに、鳥や小動物も増えています。キジ、ウズラをはじめ、鳥はずいぶん増え、まだ営巣はありませんが小型の猛禽も姿をみせます。リスはたくさんみられ、アナグマやトビウサギ、マーモット、オオカミも見つかりました。

この地方の環境の厳しさを思い知らされることもありました。干ばつは毎年のようにやってきて、敷地中央部の谷底を流れる小川が乾いてしまったことさえあります。そして干ばつの年にはバッタ、毛虫などの虫害が発生し、被害をより深刻化させます。

2003 年７月には山の奥でゲリラ豪雨があり、敷地内の谷に深さ４ｍもの土石流が発生し、育ちはじめていた多くの樹木をなぎ倒しました。下流の村では４人の犠牲者がでたのです。そのときはピンポン玉大の雹（ひょう）も降り、20cm も積もりました。

マツ伸長量の測定を行なう

【生長量などの調査を継続】

2010 年から前中久行代表の指導でモンゴリマツの伸長量の測定を継続しています。2012 年９月には大小 13 本の標本をとり、幹・枝・葉に分けて、その重量を測定しました。これにより、胸高直径を測定すればそこにある樹木の重さを推定でき、年ごとの増加量と炭素固定量を計算できるようになりました。

数年で急に伸びてきたナラ

2010 年春をもって植林可能なところはだいたい植え終わり、その後は山火事の防止などのために、管理人を配置して、保護に努めているところです。隣接する采涼山プロジェクトとこのカササギの森の成功によって、隣接地に 1,000ha 規模の北京天津風砂源治理工程の国家プロジェクトを呼び寄せることができ、あわせて 2,000ha 近いグリーンベルトが生まれています。みなさん、ほんとうにありがとうございました！

【日中双方の希望でスタート】

実験林場「カササギの森」を実現したのは、日本側と中国側、それぞれの希望です。緑色地球網絡大同事務所の技術顧問だった侯喜さん（故人）の希望は「日本の専門家から提起される植林方法の改善などを自由に試せる自前の林場がほしい」というもの。彼は現場の管理棟に泊り込んで、朝早くから暗くなるまで陣頭指揮をとりました。

日本側の意見は主にリピーターのツアー参加者からで「つぎつぎにちがう村にいくのもいいけど、やっぱり自分の植えた木が育っていくのをみたい」というもの。大同市南部の南天門自然植物園とならぶ実験研究の場を北部にももちたいという気持ちもありました。

1 本の樹木もない起工前（2000 年）

それらの希望は１つのものとして実現できます。北京に留学されていた年配のかたが国土緑化推進機構の緑の募金を通じて支援してくださったので、管理棟、灌水設備などを最初から用意でき、恵まれたスタートでした。1 口 5 万円の寄付を募り、緑化費用をまかなうことにしました。

【小鳥などの集う豊かな森を】

できるだけ多くの樹種を植え、小鳥や小動物が集う豊かな森をめざしました。その願いをこめて、「カササギの森」と名づけたのです。カササギはカラス科の鳥ですが、白と黒とのコントラストが美しく、この地方の人びとに愛されています。

盛大に起工式（2001 年）

大阪市ＲＲ厚生会ツアー参加報告

田中　芳廣（（社）大阪市 RR 厚生会）

RR 厚生会の事業参加は昨年に続き今年で 2 回目です。参加者 5 名、その日程は 8 月 23 日～ 27 日までの 4 泊 5 日です。

出発日直前になって中国各地で反日本的なデモンストレーションが起こり、周囲の人びとをして「中国への体験旅行大丈夫ですかねぇ」と心配された気配もあったのですが、デモの起こった上海や広東地方とはまったく逆で、8 月 24 日現地で黄土高原緑化協力事業 20 周年の記念行事があり、式に参加してみると大同のカウンターパートの人びとから「ようこそ！　お元気でしたか」と声をかけられ、とても友好的な雰囲気でした。行事の具体的な内容につきましては事務局長の高見さんが『緑の地球』147 号で説明されていますのでご参照ください。

体験旅行で大切なことは、現地の見学だけでなく、各自が直接植樹や除草作業の経験を積むことと承知していますす。「歓迎！　歓迎！　熱烈歓迎！」の余韻が残る雰囲気のなかで、GEN のスタディツアーに参加された 24 名の方がたと RR 厚生会会員 5 名の共同作業で記念植樹を管理棟の前で行う。近くに昨年参加された RR 厚生会会員で記念植樹した 11 本の木々も元気よく育っている。とてもなごやかな雰囲気になり、初めての体験参加を思いだしながら、RR 厚生会植樹記念碑を前に参加者 5 名の写真を撮りました。

記念植樹では、ツアーに 18 回も参加された石田和久さん 81 歳のお孫さん立光清悟さんと同じグループで作業をする。彼は大学 1 年生で、運よく夏休みだったので祖父のサポーター役ができてうれしいと喜んでいました。

しかし同じ国で飛行機で 1 時間の距離の場所で、一方では反日デモ、一方では歓迎！　歓迎！の友好ムード。どんな事なのでしょうねーと……。

中国での草の根環境緑化協力 20 年を顧みますと、緑色地球網絡大同事務所所長の武春珍さんは、『緑の地球』143 号で次のように記述されています。「数々の失敗を耐え忍び、困難な局面を突破し、両国が団結して大同の環境を改善した」と。

非営利を目的とする認定 NPO 法人緑の地球ネットワークが健在であるかぎり、大同市との友好は心配ないと思います。

左から小堀さん 81 歳、坂元さん？歳、冨永さん 62 歳
田中さん 81 歳、本並さん 72 歳

参加者募集

GEN 自然と親しむ会　山辺の道ハイキング

数多くの古代の遺跡が残る奈良の山辺の道を歩きます。古代史にもふれながら周囲の自然を楽しみませんか。

○日時：2013 年 2 月 2 日（土）
○集合：10 時に JR 万葉まほろば線巻向（まきむく）駅
○案内：巽良生さん（桜井市観光協会・GEN 世話人）
○訪問場所：珠城山（たまきやま）古墳、三輪山参拝、大神（おおみわ）神社など山辺の道のコースを散策します。
○参加費：200 円（保険料を含む）
○定員：30 名
○参加申込み：1 月 30 日（水）までに GEN 事務所へ

関東ブランチ　月例会のご案内

○日時：12 月 15 日（土）15 時～ 18 時ごろ
○場所：立教大学池袋キャンパス 12 号館 B1 階　第 3・4 会議室
※場所がいつものところと違います。
○話題提供：美谷島克実さん（元出光オイルアンドガス開発（株）技術担当副社長）
☆月例会終了後忘年会を行ないます。
○参加費無料・事前申込み不要。詳細は下記までお問い合わせください。
上田信　ueda@rikkyo.ac.jp

予告

2013 春の黄土高原ワーキングツアー

春を迎える黄土高原で村の人たちといっしょに木を植えに行きませんか。

植樹のほか、子どもたちと遊んだり、李向東さんが心をこめて管理している南天門自然植物園や、生態植林見本園が着々と仕上がりつつある緑の地球環境センターを訪問します。

参加ご希望のかたはスケジュールをあけておいてください。

●日程：2013 年 4 月 6 日（土）～ 12 日（金）6 泊 7 日
●訪問地：中国山西省大同市（北京経由）
●費用：未定（昨年実績 16 万円）
※付随費用、GEN 年会費は別途お支払いください。
●定員：35 名程度
●最少催行人員：12 名
詳細は 1 月号でご案内します。

黄土高原史話〈60〉

「中国化」がコンセプト

谷口　義介（GEN 会員）

2001 年 5 月に本誌 79 号でスタートしたこのシリーズ、延々と続いて、今回でなんと 60 回。00 年夏のワーキング・ツアーのおり、もとの地球環境林センターの敷地内で前漢時代の土器片を拾い、そのことを書いたのが第 1 回目。当初は筆者も編集子も 5 回程度、長くて 10 回くらいと踏んでいたのだが。たまには反響もあって、休載のときには問合せもあるとか。図に乗って分量もだんだんふえてきて、第 1 回に比べ今では毎回 3 倍ほどに。スペースを割き取り、編集子を困らせている次第です。というわけで、今回は少し短かめに。

さて、490 年、ゴッド・マザー（たぶんグランド・マザー＝祖母ではなく実の母）文明皇后馮氏（ふうし）が死去するや、北魏の第 6 代孝文帝は親（みずか）ら政事を執り始む。時に 24 歳で、やる気満々。

「親政するようになると、その治世の十数年の間、一時も休むことなく天下万民のために政治に精励した。古の事柄に精通し、天界と人界との調和を旨とし、諸政万般を改革した。海内の人々は皆その恩寵を賜り、そのうえ雄才大略があり、有徳有能の人物を好み、己を役して万民のために尽した。」

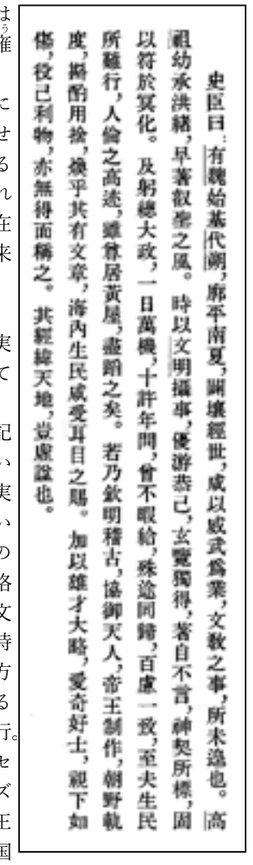
（『魏書』高祖紀、川本芳昭氏による意訳、原典参照）

歯の浮くような美辞麗句（おべんちゃら）、当人が知ったら「イヤー、それほどでも…」と照れるだろうが、じつはその実績に照らしてみて、ほぼ妥当な評価らしい。中国史のこの時代、つまり魏晋南北朝期における屈指の名君ともいわれます。

この時代の専家・川本氏著『中華の崩壊と拡大―魏晋南北朝―』（『中国の歴史』05、講談社）によりその政策を列挙すると、有るは有るは、国家祭祀の改革／胡族・漢族の家柄の確定／風俗・習慣の改革／均田制の創始／封爵制度の改革／宗廟制度の改革／中原王朝北魏としての正統性の定立、等々。これでは、まさしく「一時も休むこと」ができません。

このうち均田制は馮氏在世中の 486 年に初めて実施されますが、伝統中国の為政者にとって理想だった古代の井田法（せいでん）に基づくもの。「古の事柄に精通」した孝文帝のスタンスに通じます。また、国家祭祀の改革とは、「天界と人界との調和を旨」としたもので、前回＜ 59 ＞で述べたごとく、北魏伝統の平城西郊での祀天の儀礼を廃止し、南郊で天を祀る儀礼に切り替えたこと。

具体的には明堂（めいどう）・辟雍（へきよう）の建設で、486 年に詔（みことのり）が発せられているから、これも馮太后在世中の出来事です。



史臣曰：有魏始基代朔，廓平南夏，開壞經世，威以威武爲業，文教之事，所未遑也。高祖幼承洪緒，早著叡聖之風。時以文明攝事，優游恭己，玄靈獨得，著自不言，神契所以符於冥化。及躬總大政，一日萬機，十許年間，曾不暇給，殊途同歸，百慮一致，至夫生民所難行，人倫之高遠，雖曾居黃屋，盡蹈之矣。若乃欽明稽古，協御天人，帝王制作，斟酌用捨，幾乎共有文章，海內生民咸受耳目之賜。加以雄才大略，愛奇好士，親下如僚，役己利物，亦無得而稱之。其經綸天地，豈慮誼也。

つまり、馮太后が実権を握っていた時期、すでに上記のうちのいくつかは実施をみていたわけなのだが、本格的には孝文帝親政の時代から多方面にわたる政策が施行。そのコンセプトは、ズバリ北魏王朝の「中国化」。その帰結が、平城から洛陽への遷都にほかならない。

本の紹介

『海岸林再生マニュアル　炭と菌根を使ったマツの育苗・植林・管理』（小川眞＋伊藤武＋栗栖敏浩共著／築地書館／ 1,000 円＋税）

GEN 顧問で専門家派遣で何度も大同に足を運んでおられる小川眞さんをはじめとするみなさんの共同製作です。

東日本大震災で失われた海岸林だけでなく、日本全国で急速に消えつつある海岸林。塩害に強く、防災、防風、防砂、景観づくり、キノコ狩りのたのしみなど、さまざまな機能を持つ海岸林復活のために必要な技術をコンパクトにまとめました。

助成が決まりました

●中国山西省で実施する緑化協力プロジェクトに日中緑化交流基金の助成 1,090 万円が決まりました。北京の水源であり、風砂の吹き出し口でもある桑干河流域の緑化に役立てます。
●公益財団法人トヨタ財団アジアの隣人プロジェクト『環境協力を通じた相互理解の深化ー中国黄土高原での緑化協力を通して』に 250 万円の助成が決まりました。

YouTube でスタディツアーの映像が見られます

8 月に実施した黄土高原スタディツアーに高賛侑さん（ノンフィクション作家）が同行され、活動ぶりをビデオで撮影されました。

帰国後、1 時間に編集された DVD がツアー参加者に配布されましたが、それとはべつに 10 分あまりのショートバージョンが制作され、YouTube にアップされています。

南天門自然植物園、白羊峪林場、采涼山造林地、そして緑の地球環境センターにおける 20 周年記念活動など盛りだくさんの内容です。

以下にアクセスすると見ることができます。

https://www.youtube.com/watch ?v=v9CiyOXNW58

情報ひろば いろんなかたち

＊当欄掲載のイベント情報は掲載時点のもので、その後変更になる可能性があります。主催者にお確かめのうえ、ご参加ください。
＊当欄に情報をお寄せください。本紙は奇数月15日ごろの発行で、締切は前月の末です。なお、紙面の都合により掲載できない場合があります。ご了承ください。

第19期自然大学 受講生募集

自然との共生とは？　生物多様性とは？　生態系とは？　考えるヒントがここにあります。

●期間：2013年4月7日～2014年3月9日
●募集生徒数：50人（18歳以上。先着順）
●受講料：35,000円（交通費、宿泊費、野外実習経費を除く）
●申込み方法：氏名（ふりがな）、生年月日、性別、職業、住所、電話番号、FAX番号、趣味・特技を明記の上下記までE-mail、FAX、郵便でお申し込みください。
●主催・申込先：NPO法人自然と緑（〒537-0025）大阪市東成区中道3-2-34　Tel. 06-6978-5060　Fax. 06-6978-5061 E-mail:sizen_mi@osb.att.ne.jp
●日程：4月7日／4月21日／5月12日／5月19日／6月9日／7月7日／8月18日／9月22日／10月19日／11月17日／12月8日／2014年1月19日／2月9日／3月9日
●講師：只木良也氏（名古屋大学名誉教授）小川眞氏（大阪工業大学客員教授）伊藤孝美氏（自然大学教文部長）渡辺弘之氏（京都大学名誉教授）佐々木泰彦氏（NPO法人自然と緑幹事）ほか

2013年度（第11期） 自然環境市民大学 受講生募集中

一年間、自然環境市民大学で自然環境の保全について学び、取り組んでみませんか。

●期間：2013年4月～2014年3月（38回＋特別。原則水曜日の10時～15時30分ごろ、一部他曜日もあり）
●受講料：55,000円（分割納入も可）
●定員：30名（先着順）
●申込み方法：氏名（よみがな）／年齢／住所／電話／FAX／E-mail／保全協会の会員の是非／携帯電話番号を明記して郵送、Fax、またはE-mailで下記まで
●主催・申込先：公益社団法人　大阪自然環境保全協会　市民大学係（〒530-0041大阪市北区天神橋1-9-13ハイム天神202号　Tel. 06 6242-8720　Fax. 06-6681-8103　E-mail:office@nature.or.jp　URL http://www.nature.or.jp）
●講師：高田直俊氏（大阪市立大学名誉教授）伊藤孝美氏（大阪府農業大学校講師）佐藤治雄（大阪府立大学名誉教授）ほか

甲浦ポンカンは いかがですか

お歳暮に、贈答に、おいしいポンカンはいかがですか。

★甲浦ポンカン（低農薬・動物性有機肥料のみ使用）

【歳暮・贈答用化粧箱入り】

A	2L/3L	5kg	30個前後	4,000円
B	2L/3L	3kg	20〃	2,600円
C	L	5kg	35〃	3,500円

【普通箱入り】

D	2L/3L	5kg	30〃	3,700円
E	2L/3L	3kg	20〃	2,300円
F	L	5kg	35〃	3,200円

【家庭用。出荷は12月20日から】

G		5kg	33〃	2,600円
ゆず酢	4合瓶2本入り			4,000円

※出荷：12月7日～2月下旬
※送料別途。20kgまで関西630円、関東・甲信越840円。

★ご注文は
〒781-7412高知県安芸郡東洋町河内203　田中農園　田中隆一さん（Tel./Fax. 0887-29-2500 E-mail:tanakan@quolia.ne.jp）
※売り上げの一部をGENに寄付していただいています。ご注文の際は一言「GENの紹介」と添えてください。